



学校の詩

令和2年 4月16日
大野城市立御陵中学校
校長 藤井 浩彦

熊本地震から4年・・・

熊本地震の本震から今日で4年です。震度7の大きな地震によって、熊本・大分では、関連死の方を含めて275人の方が亡くなりました。今日という日が一生消えることはなく、悲しい思いをされている方がたくさんいらっしゃることを私たちは忘れてはいけません。被災された皆様に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

まさか、熊本であんなに大きな地震が起きるとは・・・。東日本大震災のときにもまさかあんな大きな地震が、津波が・・・。「未曾有の」という言葉が頻りに聞かれたのもこの頃ぐらいからではなかったでしょうか。それ以降も様々な自然災害や事故が起こりました。現在も、新型コロナウイルス感染で世界中が混乱しています。そして何より多くの尊い命が奪われています。多くの方が苦しんでいます。社会全体が混乱し、医療崩壊、経済の崩壊も叫ばれています。学校では休校が延長され、子ども達が行き場を失い、家庭でも混乱しているのではないかと思います。今もまさに、「未曾有」の出来事が起きています。前例のないとても大きなことです。何が正解かわからない。何がベストなのか、何がベターなのかかわからない。それでも、「命」を守ることを最優先しながら、知恵を出し合い、力を合わせ乗り越えていくしかないと思います。

これを作成している私には「命」があります。これを見ている我々は生きています。いや生かされています。だからこそ、「命」あることに感謝をし、前を向いてできることをやっていかなければいけないと思うのです。確かに、したいことができない、外出も制限されている、学校に行きたくてもいけない。多くの制限の中で、本当に厳しい、苦しい状況にある方々ばかりだと思えます。子ども達もそうです。

それでもなお、私たちは生きていかなければならないと思うのです。地震や津波、大雨のような自然災害で命をなくされた人、今回のようなウイルス感染によって亡くなられた人・・・ももっともって生きてきたのに、もっともって頑張りたかったのに、それでも生きることが叶わなかった人がいる。そのことを思えば、やはり私たちは前を向いて全力で生きていかなければならない。そう思うのです。

5月7日から学校がスタートできるのか、正直不安もたくさんあると思います。ですが、必ず青く澄み渡った今日の空のように、子ども達の笑顔と元気な声が溢れる日が必ず来る！その日が来ることを信じて頑張りたいと思うのです。

御陵中は、今週「学びのガイダンス」が完成しました。来週配付する教科書とともに、2年生・3年生の子ども達の自宅学習が少しでもスムーズに行えるようにと、先生方が愛情込めて一生懸命準備されました。感染防止のため、本当にわずかな時間と距離をとっての配付となりますが、きっと先生方は、一瞬でも顔を見ることができれば嬉しい！と、子ども達と会えることを心待ちにしています。新入生の皆さんにはまだ配付することができませんが、入学してきたときにすぐに渡せるよう「1年生学びのガイダンス」も作成中です。

御陵中の生徒の皆さん！すべての先生方が皆さんを待っています。早く会いたい！早く話したい！皆さんのことを思うだけで、涙が出そうになります。「今年は子ども達とこんなことがしたい！」「こんな勉強、一緒にしたい」「部活動で一緒に汗を流したい」「一緒に笑って、一緒に泣いて、一緒に感動したい！」と、毎日考えています。皆さんがいない学校は寂しすぎます。皆さん達がいてこそ、「先生」となった私たちの本当の意味があります。こんなにも、皆さんと会えないことが苦しくて、もどかしいなんて・・・そのことを毎日ひしひしと感じています。

でも、御陵中の先生達は負けません！絶対にくじけません！ここで私たちが諦めたら、学校の再開を待っている生徒の皆さんに申し訳ないですから。必死で子ども達を支えてくれている保護者の方に申し訳ありませんから。「命」をいただいているからこそ、諦めず前を向いて、ぎりぎりまで皆さんを迎える準備をします。健康には十分に気を付けて、制限された中でできることを見つけ、力を蓄え「その時」を待ちましょう！

生徒の皆さんに一日も早く会えますように・・・

[校長：藤井浩彦]